

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901043		
法人名	社会福祉法人 旭川健翔会		
事業所名	グループホームあさがお		
所在地	旭川市豊岡4条6丁目4番27号		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	平成27年11月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0172901043-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、平成14年に開設し、1階には通所介護、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所を併設しております。当事業所が特に力を入れている点は、ご利用者の今の状態に対しての課題や、必要なケアを把握し、ご利用者が心身ともに健康に過ごして頂けるよう、ご利用者本位のケアを行う事です。特に、余暇時間はご利用者の希望に応じて、手芸、書道、民謡、カラオケ教室等と多くの教室に講師の先生を招き、楽しんで頂いています。又、お友達との交流会や、ご家族との食事会に出かける際は送迎を行ない、交流が継続出来るよう支援しています。外部との交流は、施設を地域住民に開放し、毎月多くの方が集い、手芸等作品作りを楽しんでいます。毎年1回、作品展と販売を行ないます。大勢の地域の方が来所される中へ、ご利用者も参加し、いつもと違う雰囲気を楽しんでいます。その他に、「あさがお地域交流夏まつり」や自衛消防訓練、認知症カフェ「あさがお」を行っており、地域住民の方やご家族にも参加して頂いております。夏場には、ご利用者が職員と共に地域のラジオ体操に参加しています。又、当事業所の地域にある2つの町内会に加入させて頂き、新年会には、施設長が積極的に参加している等、地域との連携も良好です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームあさがお」は、旭川市東部の幹線道路に面した住宅街に立地している。施設長の指導の下、介護リーダーを中心に定期的に基本理念を振り返り、各利用者の意思と人格を尊重しながら自立した生活が出来るように支援している。法人のバックアップ体制の下にマニュアルや各種書類を整備し、外部研修や内部研修を充実させて職員の育成にも積極的に取り組んでいる。法人事業所で行われる行事や認知症カフェで、利用者や地域住民の交流も活発に行われている。サービス担当が家族や利用者も参加し、一緒に話し合いながら現状に即した適切な介護計画を作成している。馴染みの方との交流にも積極的に取り組み、職員が友人宅へへの送迎も行っている。全利用者が利用開始前からのかかりつけ医を継続し、看護師を中心に主治医と連携しながら適切な医療が受けられるように支援している。排泄面でも常に自立を目指して取り組んでおり、利用開始後に改善した利用者も多い。職員の意見を日頃から聴き取り、設備面での提案なども活かしながら全職員で運営やケアに取り組んでいる。看取りの勉強会を行い、今年初めて看取りを実施している。看取り後には全職員で振り返り、更に看取りに対する理解を深めている。職員の温かな対応が、利用者や家族の安心感につながっている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(本館アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を作成して職員間で共有し、その理念に基づき、事業計画を作成し実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた基本理念を作成し、各ユニットの入り口に掲示している。新人職員の採用時やミーティングで唱和したり、ケアの見直しを行う時に再確認し、全職員で共有しながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺の散歩ではご近所との挨拶や、地域へのイベントへも参加し交流している。	利用者と一緒に地域交流会やバザーなどに参加したり、事業所の夏祭りなどで近隣住民と交流している。近隣から野菜やぶどうなどのお裾分けを戴く事もある。今後は、子供達と交流する機会を増やしていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、認知症についての理解が得られるよう、地域包括支援センターの保健師より認知症についての勉強会を行っている。又、認知症サポーター養成講座を開催し、地域の方にもご案内し、10名が参加されている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況の説明や、毎月の取り組みを報告しており、意見があった場合は、検討しサービス向上に努めている。	併設の小規模多機能ホームと合同で2か月毎に開催し、事業所報告の他、介護報酬の改定などについて説明している。今後は、開催案内にメンテナンスを記載して事前に意見を聴き取り、参加できない家族の意見も会議に活かしたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点や理解に困った時は、担当者に電話で聞いたり、出向いたりして、教えて頂き対応している。	施設長は、市役所を訪問して制度改正について確認したり、生活保護受給者などについて相談している。ケアマネージャーは、介護保険の更新申請で訪問している。保護課の職員が来訪した時は、本人の状況を伝えながら相談する事もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに基づき、全職員が施設内勉強会にて共有し、見守りを重視している。外部研修参加者による報告会も実施している。	身体拘束廃止マニュアルを作成して、全職員に配布している。事例に沿ってその都度検討したり、年数回は、マニュアルに沿って勉強会を実施している。外出の仕草が見られた時は、そっと寄り添いながら一緒に出かけている。利用者に対して気になる言葉かけがあれば、その都度注意を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルに基づき、全職員が施設内勉強会にて共有し、入浴時、更衣介助やトイレ介助時等、身体状況を確認している。		

グループホーム あさがお

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センター等で開催する研修会に参加し、勉強した事等を施設内勉強会で全職員に伝え、認識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を行い、理解をしていただき、納得してもらっている。 又、ご家族のお話や状況を十分にお聞きし、不安を解消して頂けるよう関わっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会の折、気軽にお話できる雰囲気づくりに努め、何かある時は早急に対応できる体制にしている。	来訪時や、サービス担当者会議で意見や要望を聞き取っている。家族と利用者の会話から思いを把握する事もある。家族の意見は介護経過記録や申し送りノートに記入しているが、今後は些細な意見も個別に記録して更に把握したいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングでは、職員の意見を聞き、良い事は取り入れていく。勉強会に取り組んでほしい要望も聞いている。	事前に議題を伝え、各職員に意見や提案を記入してもらいミーティングで検討している。設備面でも職員の提案が活かされている。年間を通じた役割分担の他、日々の業務でも担当を決めて全職員で運営やケアに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、業務改善会議に参加している。 職員が働きやすい体制を考慮し、勤務日については希望休を組み入れたシフトになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会、施設外への研修への参加など、職員のスキルアップ、意識向上に向けている。 不安や対応についても相談を受けた時にアドバイスや検討する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の勉強会や認知症の研修参加時に他の施設の方との交流をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に慣れて頂く為にも、対話を通して、不安や心配事など耳を傾けながら安心して生活出来る様関わりを持つ。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のお話の内容を傾聴し、ご利用者の生活状況を報告しながらご家族の不安など一緒に取り組み支援させて頂く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思い、現在の状態を確認し、支援内容の提案等を何度もご相談しながら、必要なサービス内容につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホール内での過ごし方にも職員が共に全体で座りながら会話をしたり、家事の手伝いを通して感謝の気持ち伝え、共に過ごす時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の生活状況をご家族に報告し、ご利用者のご家族の思い、喜びなどを職員も共に分かち合える様支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の受け入れや受診先など、今までと同じ先への通院や必要に応じての送迎など、関わりを継続できる支援をしている。	電話で話しをしたり、近所に住んでいた友人や趣味仲間が来訪する利用者もいる。知人宅を訪れる時は、職員が送迎している。馴染みの美容室を継続して利用している方もいる。近隣のカラオケに職員と一緒に出かける事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで皆さんと過ごせる環境と、居室での自分の時間を過ごすなど、ご利用者のスタイルに合った時間作りをしている。お茶の時間には職員も一緒に入り、談笑するなどご利用者同士の関係が築ける様関わっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も、ご家族からの何か相談があれば連絡を頂けるような関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、入居後のご利用者の生活状況や心身の状況などの見直しにより、ご家族を交えて検討し、思いに近い支援を出来るよう努力している。	会話や仕草、視線、表情などから利用者の思いや意向を把握している。利用開始時に生活歴や好みなどを聴き取っている。アセスメントシートを毎年更新して、新しい情報を蓄積している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からお聞きしたり、毎日の会話の中で困った事や要望などないか引き出すような働きかけをしてる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の経過記録より業務日誌への特記事項、日勤帯から夜勤帯、夜勤帯から朝の申し送り、ミーティングと引継ぎしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体状況に応じて、早急な対応とミーティング時には職員の気づきや意見を出し合っており、ご家族との話し合いも組み入れた計画を作成している。	ケアマネージャーを中心に、毎月のモニタリングを基にサービス担当者会議で家族と利用者の意向を聴き取り、3か月毎に介護計画を見直している。介護計画を意識しながら介護経過記録を記入しているが、充分とは言えない。	短期目標やサービス内容項目に沿って利用者の変化や課題を記入するなど、更に介護計画の見直しに活かせるような介護経過記録の工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過等の記録用紙に日勤帯、夜勤帯で色分けし、体調変化があるご利用者は時間単位で記録するなど、見やすい、わかりやすい記録形式にしている。(必要に応じて水分、食事摂取量やBD、KT、体交チェックなど)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望がある時は、サービスの変更など柔軟な対応をするとともに、ご本人が喜びや安心と思われるサービスを組み入れていくようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出希望のあるご利用者の方には、希望に添った出先ではご本人の選んだお買物をする事で楽しみを持って頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望するかかりつけ医を継続している。受診、通院についてもご家族の希望に応じ看護師や職員同行や送迎をしている。希望により訪問診療もあり、主治医の関係も良く、適切な医療が受けられるよう支援している。	全員が、利用開始前のかかりつけ医を継続している。看護師が受診支援を行い、状況を主治医に伝えている。家族と受診する時は口頭で伝えたり、看護師が体調変化を記入したメモ書きを渡している。受診結果は「看護記録」に記載している。	

グループホーム あさがお

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活の中での気づきや変化を看護師に報告し、指示を受け、適切な処置や受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への訪問により、ご利用者の不安などないか、ご家族と共に情報を共有し、早期退院につなげる支援をしている。退院後の対応についても、病院側の意向など、状況に対応できるか検討し、安心して暮らしていける様支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体的変化があった場合は、主治医、ご家族、施設側の情報を共有し、段階的に話し合いの場を設け、主治医との連絡を密にし、ご本人、ご家族に安心して頂ける支援を心掛けている。終末期においてはご家族やご利用者の心情を組みとり、親切、丁寧な対応を心掛けており、看取りの勉強会も実施している。	「重度化した場合に係る対応の指針」と「看取りに関する指針」を作成して、利用開始時に説明している。体調変化に応じてその都度家族と話し合い、看取りの同意書の再確認もしている。食事が摂れなくなり、本人が体調的にも苦痛になるような時は、主治医や家族と対応を検討して入院になる事もある。今年度、初めて1名の看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルの勉強会やAED講習会の参加などにより、実技を行い訓練している。AEDを設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の自衛消防訓練や消火訓練、地域の方の参加もあり、ご利用者の身体状況を把握した避難方法を取り入れる。夜間想定訓練も自発的に組み入れている。連絡網の訓練もしている。	法人事業所合同で、地域住民も参加して春と秋に昼夜を想定した火災避難訓練を実施している。内1回は消防署の協力を得ている。災害備蓄品を整備し、職員の救急救命訓練も事業所で定期的に行っている。	地震時のケア別の対応について、全職員で話し合うよう期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あさがおの理念に基づき、プライバシーを損ねないよう支援している。	接遇を学び丁寧な言葉遣いで対応している。個人的な事を尋ねる時は居室で確認し、申し送りや記録を書く時も利用者から離れた場所で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者自身が決められる様な問い掛けなど、ご本人の言葉を表せる働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の都合を優先した日程を組み、職員配置をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の更衣、整髪はご本人の意志・意向を重視し、職員は見守りや介助が必要な時に手伝うようにしている。		

グループホーム あさがお

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普通の会話の中でも利用者さんの好きな物、食べたい物を聞き、メニューに取り入れたい、準備や片付けも一緒に手伝って頂いている。	ユニット毎に別メニューで、旬の物、好物の料理を取り入れている。回転寿司を食べに出かけたり、宅配ピザの出前を楽しんでいる。近所や家族からの差し入れを食卓に添えることもある。食材の買い物に利用者も一緒に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態により、食事量、形態を変え、必要に応じてチェック表に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯みがきと入れ歯洗浄の声掛けと見守りの中で口腔ケアをしている。食事の様子で歯の状態観察している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一部、排泄チェック表により、排泄間隔をつかみ、極力トイレでの排泄に心がけ、おむつ、パッドの使用を減らしている。	トイレ歩行への見守りがあると、6割ほどは自力での排泄が可能になっている。夜間帯もほぼトイレでの排泄を支援している。日中は布パンツやリハビリパンツに替えることで、トイレでの排泄が意識できるように自立につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのよい食事と水分、乳製品を取り入れ、体操や歩行訓練、ゲームに参加し、体を動かすことにより、腸のぜん動をよくするよう努め、各ご利用者の排便チェックにより内服や坐薬を使用し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を第一に考え、週2回の入浴を提供している。入浴拒否傾向の方には時間をずらしたり、他の職員の声掛け、連携とともに気持ち良く入浴して頂ける支援をしている。	予備日として日曜日を除き、午前中の時間帯に週2回以上の入浴を支援している。希望や状態によって午後からも入浴が可能で、入浴がない日は清拭などで清潔にしている。入浴中は会話を楽しみながらゆったりと入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の生活習慣に合わせて、お昼寝時間をもうけたり、就寝時間も本人の意思を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より頂く効能表を読むことにより、認識を深め、変更などがある場合には看護師からの指示がある。服薬時はきちんと服用できているか確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の好みのクラブ活動への参加やレクリエーションへの呼びかけ参加で楽しんで頂いている。お手伝い、買物同行にて気分転換や役割を持ち、職員は感謝のお礼の言葉を伝えている。		

グループホーム あさがお

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望を極力叶えるように努めている。買物の同行やご家族の協力により食事への外出など行っている。	天候を見て毎日のように散歩し、近所の庭を見て回ったり、近くの公園に出かけている。4月～11月の期間には毎月外出を計画し、桜、ツツジ、藤などの花見や果物狩り、ドライブなどを楽しんでいる。冬季も受診のほか、同法人のデイサービスが行っている文化展を見学し外気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物や理美容でも自分の財布から支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の居室に電話の設置が出来るようにしている。利用者が連絡とりたいと申し出がある時は支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光、温度、湿度などにも気を配り、季節の装飾や整理整頓、清掃も行い、ご利用者、職員が気持ち良い空間で生活できるように努めている。	本館のユニットは居間が広く、食卓テーブルとソファを別に配置し、別館のユニットでは光窓から注ぐ心地よい空間を一つにまとめるなど、それぞれの造りを活かした空間になっている。壁には手作りの日めくりを掲示している。四季を感じられるように、利用者も参加して折り紙やちぎり絵の作品を飾るようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の座布団を使用し、ひとりの居場所を作ったり、「隣いいですか?」と声を掛け、席につく場面も見られる。個人の選択での場所を見つけて頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた寝具や部屋にはご家族の写真など持ち込み、以前の生活を振り返り、精神的負担を軽減できるよう配慮している。	居室には馴染みの家具類や仏壇、テレビなどが持ち込まれている。小物類や縫いぐるみなども置いてあり、その人らしい居室になっている。職員は利用者と一緒に作品を飾るのを手伝い、居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー作りで、手すりや介助バーを設置し、ご利用者の方が安全な生活が送れるよう配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901043		
法人名	社会福祉法人 旭川健翔会		
事業所名	グループホームあさがお		
所在地	旭川市豊岡4条6丁目4番27号		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	平成27年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「本館ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0172901043-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年10月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(別館アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(別館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を作成して職員間で共有し、その理念に基づき、事業計画を作成し実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺の散歩ではご近所様との挨拶や、地域へのイベントへも参加し交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、認知症についての理解が得られるよう、地域包括支援センターの保健師より認知症についての勉強会を行っている。又、認知症サポーター養成講座を開催し、地域の方にもご案内し、10名が参加されている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況の説明や、毎月の取り組みを報告しており、意見があった場合は、検討しサービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や理解に困った時は、担当者に電話で聞いたり、出向いたりして、教えて頂き対応している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに基づき、全職員が施設内勉強会にて共有し、見守りを重視している。外部研修参加者による報告会も実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルに基づき、全職員が施設内勉強会にて共有し、入浴時、更衣介助やトイレ介助時等、身体状況を確認している。		

グループホーム あさがお

自己評価	外部評価	項目	自己評価(別館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センター等で開催する研修会に参加し、勉強した事等を施設内勉強会で全職員に伝え、認識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を行い、理解をしていただき、納得してもらっている。 又、ご家族のお話や状況を十分にお聞きし、不安を解消して頂けるよう関わっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者や、ご家族が意見や希望があれば、常にお聞き出来る姿勢を持っている。意見や希望があった時には運営に反映していきたい。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例ミーティングを行なっていて、勉強会を行ったり、職員の提案等を出してもらい、皆で検討し、良い事は実行している。又、毎月、業務改善会議を行い、各事業所の状況を共有している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務姿勢や実績を重視し、昇給や手当等に反映させている。 又、向上心を持って働いてもらえるよう、環境や条件に努めている。勤務日については、毎月希望休を組み入れたシフトを作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の介護力を把握し、施設内の勉強会はもとより、外部の研修にも参加させており、各協議会の研修会の情報も提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の勉強会や認知症の研修に参加時に他の施設の方との交流をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(別館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接での生活状況を把握するよう努めると共に、個々に困っている事がないか、何かしてほしい事がないかを聞き、受け止めるよう努力すると共に、安心して過ごして頂けるよう配慮することに重視した関わりを持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていることや、不安に思っている状況をよく聞き事業所として、どのような支援が必要かを話し合い、ご家族に安心して利用して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思い、現在の状態を確認し、支援内容の提案等を何度もご相談しながら、必要なサービス内容につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	嬉しい事、楽しい事を職員とご利用者が、一緒に喜び、悲しい時も一緒に支え合いながら暮らすことにより、信頼関係を深めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の日々の暮らしの中の出来事や気づきを報告し、一緒に喜び合っって本人と一緒に支えるためにご家族と同じ思いで関わっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用前の馴染みの深い方に遊びに来て頂けるよう配慮したり、出向いて行けるよう送迎し、関わりを継続できるよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者が孤立した生活にならないよう、一日の生活時間の中で、居間での共有の場と、居室での自分の時間を作り、その方に合った時間作りを行っている。 又、毎日のお茶の時間には、職員も一緒に入り、ご利用者同士の関係が円滑に出来るよう関わっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(別館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も、ご家族からの何か相談があれば連絡を頂けるような関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や意向をしっかり受け止め、ご本人らしい暮らしをご家族と交え検討し、個別に支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に現在迄の生活歴をご本人とご家族よりお聞きする事と、毎日の会話の中から引き出すよう働きかけを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティングや業務日誌の日勤帯、夜勤帯の記録等で一日の過ごし方が把握出来ている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの希望又は、介護面での変化等をミーティング時に話し合い、お互いの意見等を出し合い、反映された計画を作成している。又、期間終了前に見直しすると共に、状態が変化した時には、終了する前であっても話し合い、見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過等の記録に日勤帯、夜勤帯等色分けし見やすい記入を行っている。勤務に入る前には、必ず確認を行ってから業務につくよう義務付けしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望とご家族の希望に応じると共に、常に状況の変化を柔軟に変更し、サービスの提供することに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が望まれる、近郊のデパートやスーパー等にお連れして楽しんで頂いている。又、ご利用者の意志によりお買い物され、楽しみや、満足感を持って頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	ご本人、ご家族の希望するかかりつけ医を継続している。受診、通院についてもご家族の希望に応じ看護師や職員同行や送迎をしている。希望により訪問診療もあり、主治医の関係も良く、適切な医療が受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(別館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日勤帯と夜勤帯での勤務の中で気づきや変化を、すぐ看護師に報告する事を徹底している。その後、看護師の指示を受け、適切な看護や受診等に結びつけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状が安定した場合等、早く安心して暮らせるよう、施設で出来る状況を病院側に伝え、ご本人やご家族の希望があれば相談に努め、速やかな退院支援に結びつけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の変化を十分に把握し、ご本人の希望とご家族等の意向も伺い、主治医に伝え、主治医とご家族との確認をし、身体状況の変化のたびに繰り返し話をすることで、ご家族の気持ちの変化や本人の思いに目を向け支援につなげている。又、看取りについても、職員の勉強会を行い、主治医、看護師、介護職員、計画作成担当者全員でご本人とご家族が安心していただけるよう体制を整えている。AEDを設置している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルの勉強会及び応急手当の実技勉強会を行い、お互いに実技を行い合い訓練を行っている。AEDの実技勉強会には、地域の方にも参加して頂いている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者と一緒に避難誘導訓練と消火訓練を行っている。地域の協力体制については、運営推進会議で協力をお願いし、地域での協力体制が出来ている。又、地域の方にも参加して頂いている。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あさがおの理念である「意志」と「人格」を尊重した関わりと、ご本人のプライバシーを損う様な言葉を使わないケアを徹底した、支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事にも職員が決めて、おしつけるのではなく、いくつかの選択肢を提案して、ご利用者が自分で決めて頂けるよう関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切に過ごしてもらい、それに向けて職員が支援を行っている。又、買物等一人ひとりの気持ちに配慮しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えについては基本的にご本人の意向で決めており、職員は見守りや介助が必要な時、手伝うようにしている。		

グループホーム あさがお

自己評価	外部評価	項目	自己評価(別館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の味見や調理出来る事は一緒に行っている。誤嚥に注意し、見守り、会話をしながら楽しい雰囲気の中で食べている。 又、準備や片付けも一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態により、必要な人に対しては食事形態の変更やチェック表の記録を行っている。 又、定期的な嗜好調査により嗜好を把握し、栄養バランスにも配慮を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯みがきと入れ歯洗浄の声かけを行うと共に見守りの中で口腔ケアを行ってもらっている。 又、食事の時に歯の状態にも観察を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には排泄表を作成し、排泄間隔をつかみ、誘導する事を行い、極力トイレでの排泄に心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れる等配慮し、十分な水分摂取の声かけと体操や歩行訓練、ゲームに参加して体を動かすことにより、腸のぜん動をよくするよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を第一に考え、入浴を提供し楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活習慣に合わせて、安心した眠りや休息をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬局より頂く効能表を読むことにより認識を深めている。服薬時はきちんと服用できているかの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の能力や好みを把握し、クラブ活動やレクリエーション等で楽しんでもらっている。又、お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えている。買物に同行して頂き、気分転換も図ってもらっている。		

グループホーム あさがお

自己評価	外部評価	項目	自己評価(別館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望を極力叶えるように努めている。買物や友人宅への訪問、ご家族との食事会などの送迎も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	十分理解し、ショッピングや理美容でもご自分の財布から支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の居室に電話の設置が出来るようになっている。又、ご本人希望により携帯電話で、ご家族やお友達等と交流されている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光等、季節の花鉢等を置き、居心地良い暮らしに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや食堂等好みの場所を選択して過して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使いなれたものを、ご家族と相談し持ち込まれていて、居心地の良い生活空間を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全事業所をバリアフリーとし、手すり及び介助バーを設置し、安全な生活が送れるよう配慮している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム あさがお

作成日：平成 27年 11月 4日

市町村受理日：平成 27年 11月 6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	Ⅲ26	短期目標やサービス内容項目に添って利用者の変化や課題を記入するなど、更に介護計画の見直しに活かせるような介護経過記録の工夫を期待したい。	介護計画書と連動するように介護経過等の記録に短期目標の番号を入力し、介護計画の見直しに活かす。	11月2日に検討会議を開催し、別添「検討会議録」の通り、11月4日から新様式で実施する。	11月4日から実施
2	Ⅲ35	地震時のケア別の対応について、全職員で話し合うよう期待したい。	地震発生時対応マニュアルを作成する。	11月26日に介護職員全員で話し合い「地震発生時対応マニュアル」を作成する予定。	12月1日から実施予定
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。